

# ちゃれきんぐ

あそび雑誌

ちゃれきんぐ  
の楽しみ方

タイムリーフリーで  
イベントで  
SNSで

2023年7月 / 第7号

## 夏休みの宿題

なぜ夏休みに宿題があるのか  
保護者の夏休み

## 子どもの成長

# ちゃれきんぐ の楽しみ方

## タイムリーフリー

毎月2回程度の日曜日や祝祭日に60分間トリップとボルダリングができる機会があります。保護者であれば、大人1人に対して子ども2人まで利用可能です。

## イベント

夏と冬に季節に合わせたシーズンイベントを行います。夏は海や川、冬はスキーやスケートなど通常のレッスンとは違う環境で一回り成長します。

## SNS

イベントや情報の発信やちゃれきんぐの取り組みをご案内しています。保護者の皆様からのコメントはスタッフの励みになります。



ちゃれきんぐでは、通常のレッスンの他にちゃれきんぐを楽しんでもらえるように様々な企画を予定しています。通常レッスンで担当している先生以外にもたくさんの先生がちゃれきんぐにはいます。特にイベントは夏休みや冬休みを利用して普段体験できない内容を準備しています。色々な先生と色々な経験を積んで成長してもらいたいと思います。各イベントやタイムリーフリー利用には定員が定められています。ご案内はホームページを中心に発信していきます。どうぞ、ちゃれきんぐのホームページ、Instagram等をご確認いただき参加の申し込みをお願いします。各種イベントは定員を設けて実施します。月会費とは別に参加費用をいただくものもあるため、保護者の皆様にはご負担をおかけしますが、是非ご参加いただきたいと思ひます。



子ども達にとって夏休みは特別なものです。  
友達と過ごす時間、家族と過ごす時間、一人でゆっくり過ごす時間。

そして、こども達にはこの特別な時に「夏休みの宿題」がプレゼントされる。

## なぜ夏休みに宿題があるのか

夏休みは良くも悪くも「自由」が増える。学校の先生方は(保護者もそうかもしれないが)生活時間の乱れが心配である。

なので、宿題がある理由は①生活時間を乱さないため「学習の時間」を軸にして生活時間を整えるため②夏休みまでに進んだ学習の復習や該当学年以前の復習など学習習得のため、最後に③毎日のTODOを具体的にするため。

と私は考える。こども達は宿題が多いことや作業的学習に面倒くささを感じたり、苦手であるスペシャルな内容に不安を感じたりすると思うが、最も重要なことはこれが「大人になってからの仕事のやり方」に影響するという点である。

小学校時代から宿題は休み明け前日にやりきることをモットーにしていた私は夏休み最終日にすべての宿題をしっかりと仕上げる。あたかも毎日コツコツとしたかの如くの仕上がりで。そして、現在も締切前日にはすべての業務を仕上げる。あたかもかなりの時間をかけたかの如く。しかし、これは褒められたものじゃない。タラレバは好きではないが、もし私が計画的に夏休みの宿題を行い、余裕をもって夏休みを楽しむ「成功体験」を経験していたのなら、現在のように詰め詰めの日常は来なかったのかもしれない。

そんな私が人生の2週目を迎え、小学5年生の私からやるのであれば、間違いなく、計画的に、確実に宿題を熟(こな)し、誰からも宿題について指摘されることなく、のんびりとした日々を夏休みの最終日まで過ごすことでしょ。

夏休みの宿題を毎日こつこつやるができない子どもは、私のように、詰め詰めの日常を過ごす可能性が高くなるだけで、さほど苦しい生活を過ごすわけではないのかもしれない。

であるのであれば、せめて、思いっきり遊んで、おもいっきりご飯を食べて、しっかり寝て欲しい。そして、頭の隅っこにある「宿題をしていない」という罪悪感との戦いに勝つために、最後までできなくても宿題に取り掛かる経験だけはして欲しい。そして、「冬休みこそは」という熱い思いを胸に、元気に学校へ行って欲しい。

ただし、保護者が必ず言う「大人になったら困るよ」は、本当に困るんだということは付け加えてあげて欲しい。

# 夏の 休宿 み題



# 保護者の夏休み

さあ、こども達の夏休みがはじまります。よくよく考えてみると、私達オトナには夏休みがあるのでしょうか。「お盆休み」という名の連休がある方ももちろんいらっしゃるのですが、「暦通り」とか「稼ぎ時」となる方もいらっしゃると思います。

保護者にとっての夏休みは子どもが休みでもあまり変わらず、もっと言えばお昼ご飯の準備もしなければならなくなるという「シゴト」が増えてしまう場合もあるかもしれません。洗濯物の数は急激に増えるし、出費も増える。心配事も増えるし、ゴミも増える。

そこで、質問です。保護者の皆さんはゆっくり過ごせる休日をお求めですか？家族で楽しく過ごす思い出作りをご希望ですか？

そうですね、愚問ですね。ゆっくりしたくても夏休みは普段の休日以上になぜかシゴトが増えますよね。思い出作りはさらにシゴトが増えますよね。なんなら、仕事に言っている方がシゴトが減りますよね。

そこで、提案です。こどもの夏休みは、保護者も「夏休み」ということにしてみるのはいかがでしょうか。カレンダーに「夏休み」と書いてしましましょう。

子ども達に「えー！またカレー？」と言われたらこう言いましょう「今日は夏休みです」とタブレットを取り上げて「今日は私の夏休みですので私が使います」と言いましょう。お洒落なカフェに行きましょう。コーヒーの飲めないこどもと一緒に、ゆっくりとアイスラテを飲みましょう。こどもが注文できるものがなければ水を飲んでいてもらいましょう。こどもがぐずれば「私は今日は夏休みです」と言いましょう。(あっさすがにそれはできないと思われる方にお勧めなカフェがあります。こどもにやさしいcafeです。岩美町にあるR<sup>3</sup>cafeです。ちゃれきんぐが運営しているので完全に子どもと保護者にやさしいです。そうです宣伝です) 伝えたいのは、保護者の夏休みは日常に作りましょう。そして宣言しましょう！「夏休みです」と。



# この成長も



朝いつも通りに起き、いつも通りに学校へ行く。決まった時間割で勉強し、休憩時間はいつも通りに遊ぶ。保護者と離れた8時間は毎日同じようで毎日違う。昨日は分からなかった分数の計算が今日は分かった。先週は跳べなかった跳び箱3段が今日はとべた。昨日仲良く遊んだ友達と今日はけんかした。

お家に帰ると「がっこうどうだった？」と聞かれ、「ふつう」と答えてしまう。本当は分数が分かったことも、跳び箱跳べたことも、友達とケンカしたことも、全部聞いて欲しいはずなのに、今日も三文字で答えてしまった。

年に数回ある保護者面談で、学校の先生は普段の様子を10分で説明し、家庭の様子を5分で伝える。

本当は、分数が分かるようになったときにすごくうれしかったことを先生にも、お家の人にもわかって欲しかった。

「ふつう」って言っちゃうのはどうやって言えばいいかわからないから。できたことを「すごいね」って言われたいんじゃないかって、一緒に喜んでほしいだけ。でも「嬉しかった」っていうのを言うのをわすれちゃう。

言葉も  
気持ちも  
考えも  
知っている  
こ  
できるところも  
毎日ふえてい

子どもにとっての成長は分かることやできることが増えるだけではないと思う。

初めて言葉を発したとき、始めて一人で歩いた時、できたことを褒めてもらえたんじゃないかって、できたことを一緒に喜んだはず。

子どもにとっての成長とは、感情が動くこと。そして、その感情を共感してくれる大人がそばにいてくれること。これこそがこどもの安心につながると思う。

安心できる環境だから子どもは成長できる。こどもが発する「ふつう」にはその共感してほしい感情が隠れている。一番毎日増えているのは感情を自覚する機会なのかもしれない。

誰にも言えず一人で抱えて思い悩むこともある。大人から見たら些細なことや他人からすればどうでもいいことを重たい漬物石を胸にしまい込んでいるかのように。「どうした?」「何かあった?」と聞かれても、「事柄」を聞いて欲しいわけではない。「気持ち」を共有して欲しいだけ。それだけで少しだけ漬物石が軽く感じられる。

成長とともに、「喜び」の感情以外の感情も理解できるようになる。「怒り」や「苦しみ」「くやしき」など。「感情表現」とよく言われるが、こどもは成長とともにたくさんの感情を理解する。しかし、成長とともにその感情の伝え方はわからなくなる。だからこそ、傍にいるオトナの仕事は「共感」なのだと思う。「つらかったね」「こわかったね」という言葉だけで、少しだけ安心できる。

こどもの成長に合わせて、私たちオトナはまず、感情を共有していくことを大切にする方がよいのかもしれない。

「感情表現」や「他者の感情理解」と難しく考える前に、目の前にいる子どもはどんな気持ちなのか。そこからこどもの成長を理解しても良いのかもしれない。